

			<p>シンポジウム テーマ「現代っ子の性を考える」 司会進行 (社)日本家族計画協会クリニック所長 北村 邦夫 司会進行 NBC ラジオ佐賀パーソナリティー 阿部 かおり シンポジスト 若者 男女 数名</p> <p>2 第2回母子保健推進員全国大会の開催 平成14年11月15日(金)佐賀市文化会館において本会議、佐賀県、佐賀市、全国母子保健推進員連絡協議会の主催、厚生労働省他20団体の後援により1,100名の母子保健推進員及び関係者を集め、開催した。</p>	<p>5 母子保健推進員教育事業 (1)ブロック母子保健事業研修会の開催 (2)母子保健推進員研修会の開催 (3)母子保健推進員県外交流特別研修会の開催 (4)沖縄県母子保健特別対策の実施 (5)母と子の健康を守るつどい (6)都道府県母子保健推進員協議会組織育成事業 (7)母子保健指導書の制作配布</p>
	4		<p>行政説明 国民運動「健やか親子21」の推進を 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課課長 谷口 隆 思春期教育劇「未来へ」 沖縄市母子保健推進員「ひまわり会」 シンポジウム「母子保健推進員協議会活動の現状と展望」 司会 (社)母子保健推進会議常務理事 原澤 勇 アドバイザー NPO 法人全国市町村保健活動協議会常任理事 大坂 多恵子 講師 山口県母子保健推進協議会会長 林タカ枝 富山県母子保健推進員連絡協議会 岩田民子 和歌山県母と子の健康づくり運動協議会会長 狭間歌子 長野県保健指導員等連絡協議会会長 田中晃子 佐賀県母子保健推進協議会会長 古賀裕子</p> <p>3 (社)母子保健推進会議会長表彰 1)団体(21) 2)個人(34)</p> <p>4 全国母子保健推進員連絡協議会活動報告会の開催 日時:平成14年11月14日(木) 17:15~19:00 会場:佐賀市文化会館 内容:母子保健推進員活動報告 出席者:46名(各県母子保健担当者、母子保健推進員および関係者)</p> <p>5 母子保健推進員教育事業 (1)ブロック別母子保健事業研修会の開催 本会議、開催県、(社)日本家族計画協会、(社)全国保健センター連合会との共催、厚生労働省、(社)日本助産師会の後援により5ブロック(6会場)で母子保健推進員、母子保健事業に従事する関係者を対象に開催した。</p>	<p>母子保健推進員を対象とする指導書を制作する。 1) 指導書(手帳) 2) リーフレット 〔表題〕①「丈夫な赤ちゃんを生み育てましょう」 ②「元気に育てよう 私の赤ちゃん」</p> <p>6 本会議機関紙「母推さん」の刊行 「母推さん-母子保健推進員だより-」(タブロイド判)を毎月1日(No.104~No.115)発行し、都道府県・保健所・市町村および母子保健推進員協議会等関係機関に配布する。</p> <p>7 子育て支援グループ育成事業</p> <p>8 母子保健に対する知識の普及啓発活動 10月を「母子保健強調月間」とし、厚生労働省の後援、(社)日本産婦人科医会など、会員団体の協力を得て次の事業を行う。 妊産婦、乳幼児の健康診査受診奨励ポスターの制作配布 〔表題〕「ママと赤ちゃんの健康チェック」 「支えよう21世紀の健やか親子・健診を忘れずに受けましょう」 働く女性・事業主の皆さん「母健連絡カード」を利用しましょう 「健やか親子21」国民運動の推進</p>
	4		<p>テーマ:子どもの心の安らかな発達支援のために 子どもの虐待防止を目指す地域システムづくり 思春期の心の健康づくり 若者の性を考える 妊娠・出産期の母子精神保健 育児不安と子どもの虐待 小児期における問題の早期発見と早期対応の取り組み 1) 東北・北海道ブロック(秋田県) 250名 9月5日~6日 2) 関東・甲信越ブロック(東京都) 107名 8月29日~30日 3) 東海・近畿・北陸ブロック(京都府) 107名 8月29日~30日 4) 中国・四国ブロック(高知県) 86名 11月21日~22日 5) 九州ブロック(北九州市) 256名 8月22日~23日</p>	<p>9 母子歯科保健知識の普及活動 (1)母子保健推進員、保健師、学校関係者の歯科保健教育研修会の開催 (2)歯科保健に関するテキストの制作配布 〔表題〕ダブルファイル「キシリトールでむし歯予防」「歯ブラシはこまめに替えよう」 (3)歯科保健パンフレットの委託制作 愛知県及び三重県歯科医師会より委託を受け制作・配布する。 (4)母子歯科保健教材セットの配布事業 (5)歯科保健に関するリーフレットの制作配布 (6)歯科保健指導用パネル制作配布</p>

			<p>6) 北海道(札幌市) 180名 11月15日</p> <p>(2)母子保健推進員研修会の開催 市町村母子保健事業促進と母子保健推進員の資質向上をはかるため、母子保健担当者及び母子保健推進員を対象に、厚生労働省の後援により次の各県で研修会を開催した。 主な研修会の内容は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 母子保健推進員活動報告 2) こどもの事故防止 3) 乳児期の歯科保健 4) 子育て支援 5) 歯科保健 6) 子どもの虐待 7) ドメスティック・バイオレンスと女性の 인권 8) 思春期保健 <p>(3) 沖縄県母子保健特別対策の実施 沖縄県母子保健事業の促進をはかるため、沖縄県において母子保健推進員、市町村母子保健担当者を対象に、平成15年1月23日(木)に浦添市民会館で、800名の母子保健関係者が参加して研修会を開催した。</p>	<p>10 妊婦等禁煙運動の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ポスターの制作配布【表題】「ママ、パパ、タバコすわないで」 (2) リーフレットの制作配布【表題】「ママ、パパ、タバコすわないで」 (3) クリアファイルの制作配布【表題】「ママ、パパ、タバコすわないで」 <p>タバコの吸いすぎは、早産・低体重児の誘因になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 11 子どもの事故防止推進事業 12 子育て中の母親へのピア・カウンセラー養成事業 13 児童虐待防止のための母子保健推進活動支援、研修、パンフレット配布
	4		<p>(4) 母と子の健康を守るつどい 母子保健推進員の地域活動を助成し、県民の乳幼児保育に対する意識の向上と地域連帯感の高揚をはかるため「母と子の健康を守るつどい」を山口県阿東町で開催した。</p> <p>(5) ピアカウンセラー養成事業 新潟県五泉市において母子保健推進員に対して9日間コースでピアカウンセリング研修会を実施した。</p> <p>(6) 母子保健指導書の制作頒布ならびにリーフレットの制作配布 母子保健推進員に対する指導書及び推進員訪問活動用リーフレットを制作配布し、母子保健事業の教育並びに啓発を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指導書 【表題】「母子保健推進員」 【制作数】1,500部 【配布先】母子保健推進員 2) リーフレット 【表題】①「丈夫な赤ちゃんを生み育てましょう」 ②「元気に育てよう 私の赤ちゃん」 【制作数】20,000部×2種 【配布先】母子保健推進員(研修会参加者) <p>(7) 都道府県母子保健推進員協議会の組織育成事業 母子保健推進員の育成と全国的な組織活動を支援する都道府県母子保健推進員協議会に対して育成費の助成を行った。 富山県母子保健推進員連絡協議会 長野県保健指導員等連絡協議会 新潟県母子保健推進協議会 和歌山県母と子の健康づくり運動協議会 山口県母子保健推進協議会 佐賀県母子保健推進協議会</p>	<p>14 第15回手づくり健康教育媒体コンテストの開催 (財)予防医学事業中央会、(社)日本家族計画協会との共催で開催する。</p> <p>表彰 最優秀賞 : 厚生労働大臣賞 1件 優秀賞 : 3件 佳作賞 : 若干 奨励賞 : 若干</p>
	4		<p>(8) 茨城県北浦町視察研修 平成14年11月29日(金)に茨城県北浦町の母子保健推進員および、担当保健師13名が本会議に來訪。視察研修を行った。</p> <p>6 本会議機関紙「母推さん」の刊行</p>	

			<p>母子保健推進員を対象として、機関紙「母推さん」-母子保健推進員だより- (タブロイド判)を毎月発行し、全国の都道府県保健所・市町村母子保健関係者及び母子保健推進員等に配布した。92号～103号</p> <p>7 子育て支援グループ育成事業 地域住民の参加により、子育て問題をテーマとする「母子保健・健全育成住民会議」を次の各県で開催した。 主な研修会の内容は 1)講演「心をことばにのせて」 2)絵本の読み聞かせ 3)講演「ダダこね育ちのすすめ」 4)シンポジウム「子育てに思うこと」他</p> <p>8 母子保健に対する知識の普及啓発活動 (1) 10月を「母子保健強調月間」とし、(社)日本産婦人科医会、(社)日本小児保健協会など会員団体の協力、厚生労働省の後援を得て次の事業を実施した。 1)妊産婦、乳幼児の健康診査受診勧奨ポスターの制作配布 〔表題〕「ママと赤ちゃんの健康チェック」-支えよう21世紀の健やか親子- 健診を忘れずに受けましょう 働く女性、事業主の皆さん「母健連絡カード」を利用しましょう 母と子の健康をまもる運動 〔主唱〕社団法人 母子保健推進会議 〔後援〕厚生労働省 〔制作数〕45,800枚 〔配布先〕都道府県、政令市、中核市、関係諸団体</p>	
	4		<p>2)母子保健啓発用パンフレットの制作配布 〔表題〕「母子保健」第38号 〔制作数〕2,600部 〔配布先〕都道府県、政令市、中核市、関係諸団体、全国大会参加者</p> <p>9 母子歯科保健知識の普及運動 (1)母子保健推進員、保健師、学校関係者に対する歯科保健教育研修会の実施 市町村母子保健対策の一環として母と子の歯科保健知識の普及をはかるため、歯科保健教育研修会を育児教育と併せて、母子保健推進員及び保健師、学校関係者等を対象に、次の各県で行った。 主な内容は、 1)口腔清掃 2)歯周病の原因と予防 3)摂食機能の発達について 4)歯科臨床の現場から 5)噛み合わせと歯の健康 6)歯科矯正 開催県：鳥取県、新潟県、青森県、山口県、富山県、岐阜県、佐賀県、長野県、鹿児島県、沖縄県、茨城県 (2)歯科保健に関するテキストの制作配布 〔表題〕「乳幼児歯科保健指導のポイント」(歯科保健指導者のために) 〔制作数〕1,600部 〔配布先〕歯科研修会開催県及び参加者(専門職)</p>	

		4	<p>(3) 歯科保健パンフレットの委託制作 愛知県の委託、愛知県歯科医師会の指導により制作配布。 〔表 題〕「歯のパスポート」守ってあげてね！お子様の歯！こんにちは！6 歯臼歯 〔制作数〕 81,000 部 〔配布先〕 愛知県市町村及び歯科医師会</p> <p>(4) 歯科保健に関するリーフレットの制作配布 〔表 題〕「おかあさんといっしょに よい歯で よくかむ よい子ども」 〔制作数〕 750,000 部 〔配布先〕 全国保健センター、各県研修会場</p> <p>(5) 歯科保健指導用パネル制作配布 〔表 題〕 歯科保健指導用パネル 〔指 導〕 (社)日本歯科医師会 〔制作数〕 725 枚 〔配布先〕 都道府県、政令市、市町村、各県歯科医師会関係</p> <p>(6) 母子歯科保健教材セットの配布 〔対 象〕 1.6 歳児または3歳児 〔実施方法〕保健所、市町村保健センター等の歯科健康診査及び歯みがき 教室の実施日に教材を配布し、歯科保健知識の普及を図った。 〔配布教材〕1.6 歳児用歯ブラシとリーフレット 3歳児用歯ブラシとリーフレット 〔配布数〕 559,750 セット 〔配布先〕 県(市)主管課または保健所</p>	
		4	<p>10 妊婦等禁煙運動の推進 (1) 妊婦の喫煙による弊害を訴えるポスターを制作し、都道府県、政令市、 中核市、病院等に配布し、啓発普及を行った。</p> <p>1) ポスターの制作配布 〔表 題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 〔協 賛〕 明治乳業株式会社 〔後 援〕 社団法人 日本産婦人科医会 〔制作数〕 20,000 枚 〔配布先〕 都道府県、政令市、病院、関係諸団体等</p> <p>2) リーフレットの制作配布 〔表 題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 ータバコは早産・低体重児の誘因になりますー 〔制作数〕 86,000 部 〔配布先〕 都道府県、関係諸団体等</p> <p>3) クリアファイルの制作配布 〔表 題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 ータバコは早産・低体重児の誘因になりますー 〔制作数〕 15,000 枚 〔配布先〕 研修会開催県及び参加者等</p> <p>11 子どもの事故防止推進事業 子どもの事故防止のための研修会を開催するとともに事故の調査を行った。 また教材の制作を行い広く活用を図った。 (1) 研修会の開催 鹿児島県 平成 14 年 10 月 16 日(水) 沖縄県 平成 15 年 1 月 23 日(木) (2) 誤飲防止の教材として「誤飲チェッカー」の開発を行い、研修会及び一 般マスコミを通して頒布活動を行った。</p>	

		4		<p>12 子どもの虐待防止推進事業 「児童虐待防止のための地域支援事業」として日本財団より助成を受け研修会の開催ならびに「テキスト」「リーフレット」を制作し広く活用を図った。 (1)研修会 延参加者数 1,288名 群馬県 平成14年6月24日(月) 前橋市民文化会館 421名 熊本県 平成14年10月10日(木) メルパルク熊本 300名 大阪府 平成14年11月19日(火) ドーンセンター 270名 広島県 平成14年11月27日(水) 広島県健康福祉センター 147名 長野県 平成14年11月28日(木) 長野県自治会館 150名 (2)テキストとリーフレットを上記5県並びに本会関連事業として子ども虐待研修を実施した北海道、茨城県において配布し、有効活用を図った。 テキスト… 「母推ノート」ー子ども虐待防止のためのサポートー 13,000部 規格:A5版、80頁、4色刷 著者:佐藤 拓代 小児科医、大阪府児童虐待研究会世話人 リーフレット…「お母さん、子育てを楽しんでいますか？」 ー一人で悩まないで、私たちもお手伝いできますー 100,000部 著者:佐藤 拓代 小児科医、大阪府児童虐待研究会世話人</p> <p>13 第14回手づくり健康教育媒体コンテストの開催 本会議、(社)日本家族計画協会、(財)予防医学事業中央会の共催、厚生労働省、東京都、(財)保健会館、健康保険組合連合会、(財)健康・体力づくり事業財団、(社)全国保健センター連合会の後援により全国の行政や健康保険組合などで独自に制作、活用している手づくり教材を募集し、全国より63件の応募があった。さらに、他の模範となるよう表彰し、その成果を広く周知した。</p>	
		4		<p>厚生労働大臣賞 1席 沖縄県沖縄市母子保健推進員ひまわり会 パネル「事故予防パネル」 模型「事故予防ミニチュアハウス『危ない家』」 優秀賞 3席 北海道札幌市中央保健センター パネルシアター「いのち・からだのおはなし」 千葉県四街道市立学校栄養士会 模型「野菜人形」 新潟県市町村栄養士協議会上越支部 パンフレット「元気いきいきチェック表」 佳作賞 48席 北海道渡島保健所ほか47席 パワーポイントスライドショー「介護認定審査委員会研修用スライド」 奨励賞 11席 千葉県夷隅郡市立学校栄養士会ほか10席 エプロンシアター「三色の栄養エプロン」</p>	
51	(社団)母子用品指導協会	4	46 子育てに自信が持てるような支援の推進 49 育児について相談できる環境の整備	<p>46. ママと赤ちゃんのための用品「なにが必要?どう選ぶ」(一部改訂版)を作成し各市町村の保健センター等から120万部を配布。(B6判 横長 本文16ページ) 49. グループホームページ「子育てインフォ」内に母子用品情報ページ「e-もの」を継続して掲載。 同「子育てインフォ」内に、「子育てインターネット相談室」を開設し、ネット上</p>	<p>46. ママと赤ちゃんのための用品「なにが必要?どう選ぶ」(一部改訂版)を作成し各市町村の保健センター等から120万部を配布。(B6判 横長 本文16ページ) 49. グループホームページ「子育てインフォ」内に母子用品情報ページ「e-もの」を継続して掲載。 同「子育てインフォ」内に、「子育てインターネット相談室」を開設し、ネット上</p>

				で相談の受け付けや情報の配信を行う。	ト上で相談の受け付けや情報の配信を行う。 ① 子育てで不安解消パネル ② 今月の妊娠・出産・子育てに関する情報提供等
52	日本小児歯科学会	4	45.虐待の発生予防、早期発見・対応、支援の推進 46.子育てに自信が持てるような支援の推進 54.受信者が満足いく乳幼児の健康審査の実施の推進	45. * 地域保健委員会、広報委員会、学術委員会においてリーフレットの作成検討 46. * 学術集会の開催「少子社会に対する取り組みの現状と展望」 参加人数 約80名(学会員)	45. 虐待の発生予防、早期発見・対応、 * 委員会活動の中で会員啓蒙のためのリーフレットの作成を継続審議 46. 子育てに自信が持てるような支援の推進 * 公開講座の開催(未定) 54.受信者が満足いく乳幼児健康審査の実施の推進 * 継続事業 学会員に受診者用リーフレットの頒布 55.育児支援に重点をおいた乳幼児健康審査の実施の推進 *「乳幼児口腔保健指針(仮題)」の作成
53	日本小児総合施設協議会	3	29.妊娠中の喫煙の防止・育児期間中の両親の自宅での喫煙の防止 39.小児救急体制の整備と充実	29.妊娠中の喫煙の防止・育児期間中の両親の自宅での喫煙の防止 研修会と公開講座と開催1)研修会(神奈川県立こども医療センター)2回 テーマ:受動喫煙の影響について 胎児および受動喫煙者に及ぼす影響を先天異常モニタリング調査と文献に基づいて教育講演を実施。参加者は50名(意思、看護師、メディカルスタッフ)。特に周産期センター職員の参加が重要であった。 効果:平成14年10月から全館禁煙を実施。 2)公開講座(神奈川県立こども医療センター)1回参加者約80名 テーマ:こどもをたばこの害から守ろう 根拠は受動喫煙の影響について一般市民を対象に実施。静岡こども病院と共催。市民対象であったが、保健師、助産師、養護教諭などの参加も多数あり情報伝達もよかった。 39.小児救急体制の整備と充実 貧弱は小児救急体制を改善すべく、小児総合医療施設協議会は、小児救急にかかわるべきの方針を確認。新たに下記の施設で小児救急が発足できた。 1)神奈川県立こども医療センター:救急診療科を新設し、県の小児救急システムのうち主として三次救急を分担開始(平成14年1月から)。実績が上がっている。 2)国立成育医療センター:一次～三次の小児救急を開始。実績が上がっている。 3)埼玉県立小児医療センター:一次から三次小児救急を開始。徐々に実績上がる。 4)他の小児医療施設も独自に取り組み始めている。 小児病院は小児科医の集積基地であり、その実力を小児救急にも発揮することは、日本の小児救急の発展充実に大きく貢献するものである。	41.小児科医師・新生児科医師・児童精神科医師の確保と養成 Background: 大学医学部においては、小児科学講座が一つしかなく、内科、外科に比べ臨床教育体制が不備であり、大学医学部での人材育成が困難である。 ・小児総合医療施設は、我が国の小児医療・小児保健で大きな役割を果たしているが、小児科医師・新生児科医師・児童精神科医師の育成においては、専門化しているために十分な役割を果たしてきたとは言いがたい。 ・近年、多くの小児総合医療施設が小児救急医療部門を開設し、小児のプライマリケアの実地教育が可能となってきた。 ・しかし、平成16年度から実施される新しい卒後臨床研修制度においては、小児科研修における小児総合医療施設の位置づけは極めて曖昧であり、十分には活用されていない。 行動目標: 小児科医師養成のための教育体制の抜本的改革のあり方を提言する(ア)小児科臨床教育体制の不備を、調査研究により明確にする。(イ)小児総合医療施設を大学医学部における卒前・卒後小児科教育のフィールドとして位置づけ、小児総合医療施設のスタッフの教育資格の明確化を図る。
54	日本新生児学会	1		思春期の問題と出生前・後の児の健康の確保を関連づける7ヒールをおこなうべく、学会内委員会において実現のための検討をおこなった。	8. (1)若年妊娠に伴う周産期の問題点について、母体、新生児の両方の観点から明らかにし、医療従事者および、思春期の生徒、学生への教育方法を検討する。 (2)思春期の心の発達過程において、妊娠、分娩、育児について正しく理解させる方を検討する 9. 性感染症と妊娠、分娩、新生児との関わりについての教育、啓蒙運動を計画する。 上記のテーマにつき本学会のホームページの一般市民を対象としたページ

		2		<p>第38回日本新生児学会学術集会シンポジウムを平成14年7月14-6日に神戸国際会議場において開催した。</p> <p>シンポジウム1「これからの母子支援」1)より安全なお産を目指して、2) prenatal visit、3)母乳育児の推進、4)NICU 長期入院児への支援、5)社会資源の有効活用、</p> <p>シンポジウム2「intact survivalを目指す多胎児の妊娠・分娩管理」1)多胎妊娠の発生の要因の解析と予防、2)多胎妊娠の流産の予防と管理、3)TTTS(discordant twin)の診断と管理、4)多胎妊娠児の予後</p> <p>周産期専門医制度に関連して、日本小児科学会、日本産科婦人科学会、日本周産期学会などとの協議をしつつ、具体的な検討を開始した。</p>	<p>に掲載する。</p> <p>第39回日本新生児学会学術集会 平成15年7月13-5日開催予定、福島県郡山市</p> <p>会頭講演:胎児仮死の用語をめぐって、招請講演:1. Fetal asphyxia and Brain Damage、2. Diagnosis and management of some major problems in twin pregnancy、3. life in the Womb、教育講演:1. 新生児低酸素性虚血性脳症に対する脳低温療法、2. 胎児外科治療、3. 胎児心拍数図の定義と解説、4. 肝炎ウイルスの母子感染、5. White Matter damage(PVL)のグローバル・ストラテジー、6. 妊娠糖尿病</p> <p>シンポジウム1. 周産期専門医制度の設立に向けて、2. 母体血中胎児細胞・DNAの分析とその応用、3. 胎児子宮内環境評価の新たな展開と可能性、4. 周産期異常の修復・再建医療</p> <p>(1)周産期専門医制度の平成16年度からの施行を目指す。 (2)周産期医療のサブスペシャリティの構築とサービス人材の質・量確保のための方策を検討する (3)新生児死亡率、罹病率のさらなる改善と育児不安の軽減を計るために行政と連携して施設基準を見直し、提言し、また関連学会との統合的刊行物を作成する (4)妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保のためのガイドライン策定 (5)出生前ケア、安全な出産とその後のケアのシステムの確立</p>
		3		<p>(1)第38回日本新生児学会学術集会を平成14年7月14-6日に神戸国際会議場において開催した。教育講演:周産期医療とIT、先天性心疾患外科治療の現状-特に緊急手術を要する新生児例について、招待講演:Quality control of neonatal medicine</p> <p>(2)新生児科医、小児科医の減少の対策および、減少に対応した新生児救急医療システムの維持、向上をはかるための環境整備について、学会内の委員会で検討した。</p>	<p>第39回日本新生児学会学術集会 平成15年7月13-5日、福島県郡山市</p> <p>シンポジウム4. 重症障害新生児医療のガイドラインを巡って</p> <p>41. 新生児科医、産科医及び小児科医の不足の対策と減少に対応した産科・新生児救急医療システムの維持、向上をはかるための環境整備について検討をし、提言する</p>
		4		<p>第38回日本新生児学会学術集会シンポジウムを平成14年7月14-6日に神戸国際会議場において開催した。シンポジウム1これからの母子支援、1)より安全なお産を目指して、</p> <p>2) prenatal visit、3)母乳育児の推進</p>	<p>第39回日本新生児学会学術集会 平成15年7月14-6日開催予定、福島県郡山市</p> <p>(1)少子化及び核家族化による育児不安を軽減させるための施策の立案もしくは、ガイドラインの作成 (2)育児不安解消のため搬送システム、回復期支援システム、育児指導システムの検討 (3)1か月健診の状況の把握、両親学級の状況の把握をおこなう</p>
55	日本学校保健学会	1	60代の喫煙の防止	<p>前年に引き続き、「学校をタバコのない場所に！」という運動を行った。</p> <p>この運動のためのプロジェクトを学会内に組織して各都道府県及び政令指定都市の教育長宛に学会提言のパンフレットを送付しこの運動の推進方を依頼した。</p> <p>教育委員会主催の会合にプロジェクトメンバーを派遣し学校内喫煙防止の講演を行った。</p>	<p>本年度も上記の運動を継続して行ってゆく。</p> <p>和歌山、茨城など県単位で学校内禁煙取り組み始めたところもあり、なお一層の普及にむけて様々な方法で働きかけを続けてゆく。</p>
56	日本小児神経学会	3	43.身体障害者療育支援	<p>小児神経学会の「国内渉外委員会」を「社会活動・広報委員会」へと発展的に改組し、次の3つのグループにわけ小児保健水準の維持・向上に寄与することとし、2年目を迎え下記の項目につき活動した。</p> <p>1)身体障害者療育支援グループ:主として障害児教育分野に取り組んだ。10月21日、学校における「医療的ケア」への見解と提言をまとめ、要望書を厚生労働省、文部科学省に提出した。</p> <p>2)身体障害者に対する研究支援グループ:障害児に関する研究を学会が支援。</p> <p>3)知的障害児を中心とした療育支援グループ:障害医学的知識の啓蒙、</p>	<p>平成13年度に発足した社会活動・広報委員会の3グループのリーダー、メンバーを決定したので、実際の行動を開始した。今年も3つのテーマにつき活動を推進する。</p> <p>1)身体障害者療育支援グループについては、全国8つのブロックにそれぞれの代表者を置き、地域と連携の濃い療育支援を行う。</p> <p>2)身体障害者に対する研究支援グループ、3)知的障害児を中心とした療育支援グループについては、研究会(シンポジウムなど)、研修会を開催し、学会と社会との連携を深める。</p> <p>第45回日本小児神経学会総会において、公開シンポジウム「教育と医</p>

				教育との連携を推進。 第 44 回日本小児神経学会総会のメインテーマを「子どもの脳とこころを科学する」とし、不登校、心身症、ADHD など、子どもの心に関する問題についても、研究発表を行い、公開シンポジウム「ADHD わかれば見える子の心、わかれば変わる自分と社会」を開催した。	療 の連携?小児神経科医が果たすべき役割を開催予定。
57	(財)日本食生活協会				
58	全国病児保育協議会	3	病気のこどもの家庭での看護保育の実践	施設長研修会 分科会のテーマを「形態別の Q&A」とし、医療機関併設型、乳児院・保育園型・派遣型・その他形態別に分かれて話し合う。 職員研修会基礎 セミナー「総論・看護師のための保育知識・保育士のための看護知識」 シンポジウム「病児保育の食事」 分科会「自由演題」「病児保育の地域交流」「病児保育のリスクマネジメント」「保育所型病児保育所の課題」「行政とのかかわり 補助金を中心として」 その他 病児保育を知ってもらうための広報活動 ニュースの発行、HP の更新・維持	施設長・職員研修会 病(後)児保育室自己評価基準全国調査報告 全国病児保育室実態調査中間報告 基礎セミナー「看護師のための保育知識・保育士のための看護知識」 分科会「なんでも相談 Q&A」「厨房衛生管理規定」「病児のための遊びの提供」「インシデントレポート」 その他 病児保育を知ってもらうための広報活動 病児保育のポスターを制作し、掲示してもらう 過去のメール、掲示板の内容を整理し、病児保育に関する Q&A をまとめる
		4	46.48.49.50.51.	施設長研修会 講演「病(後)児保育自己評価基準」 ＝こどもの権利擁護とサービスの質の向上にむけて＝ 講師 清心乳児園 園長 平田 ルリ子 先生 職員研修会 講演「いろいろなこどものかかわり方」 講師 聖心女子大学 本吉 園子 先生 講演「病児保育におけるリスクマネジメント」 講師 東京都立母子保健院 院長 帆足 英一 先生 その他 HP の掲示板での相談	施設長・職員研修会 特別講演 聖マリア病院 橋本 武夫 先生 京都大学病院 小児科ボランティアコーディネーター 神田 美子 氏 その他 地域子育て支援センター、派遣型乳幼児健康支援一時預り事業、ファミリーサポートセンター、保育サポーター、ベビーシッター等の他の育児支援グループとの連携
59	性と健康を考える女性専門家の会				
60	日本外来小児科学会	1		1. リーフレット作成委員会より、リーフレットの作成と配布(思春期の鉄欠乏性貧血) 2. ワークショップ:思春期のプライマリケアをどう実行するか 8 月 31 日、第 12 回日本外来小児科学会年次集会、名古屋国際会議場、参加者 25 名 概要:小児科医が思春期のプライマリケアを担う場合の基本的な知識、技術、実行するうえでの問題点について討論した。	1. リーフレットで思春期に関するものを作成する。 2. 学会の年次集会でワークショップを継続し、ガイドライン作成をめざす。また、学会全体の活動として位置づけられるよう活動を拡大する(思春期問題検討会の設立)
		3		1. リーフレット作成委員会より、リーフレットの作成と配布(資料参照) 2. おたふくかぜワクチン、インフルエンザワクチンについて臨床研究を展開中 3. 診療ガイドライン作成検討会の設立 4. 園・学校保健勉強会の開催 5. 電子カルテ検討会の開催 6. 事故予防検討会の設立 7. 会員からのアドボカシー活動を集め、学会としてアドボカシーを展開(現在は、麻疹の予防接種無料化の活動)	上記の 1-7 について、継続して取り組み、その結果を文書、論文、冊子、本の形で公表していく。
		4		1. リーフレット作成委員会より、リーフレットの作成と配布。 2. 学会の年次集会において、いろいろな育児支援のためのワークショップが開催された。	上記の活動を継続し、日々の診療の中でも育児支援マインドをもつことが、プライマリケア医の重要な役割であることを会員に広く認識してもらう。

				3. 会員から育児支援の活動を集め、アドボカシーNOWとして学会誌に連載中		
61	日本糖尿病・妊娠学会	2	15	満足できる妊娠・出産への支援	<p>・妊娠糖尿病に関するスクリーニングと妊娠糖尿病にかかった人の分娩後の糖尿病への進展率のフォローアップスタディ。</p> <p>・糖尿病妊婦から生まれた奇形児を少なくするため計画妊娠を励行させる。</p> <p>・特に我が国では若年者の糖尿病でも欧米と異なり2型糖尿病が多く、見逃されることが多いので、妊娠前から糖代謝異常のチェックを行う必要性を知ってもらう努力を行う。</p> <p>◎ 学術集会 2002年12月6日・7日開催、奈良県新公会堂 約300名参加概要</p> <p>1) 厚生科学研究「妊娠糖尿病のスクリーニングに関する多施設共同研究」?Japan Study Group of Assessment of GDM Screening (JAGS)?(中間報告)</p> <p>2) 教育講演:「糖尿病患者の妊娠・出産時の眼科的管理」</p> <p>3) シンポジウム:「糖尿病合併妊婦の体重管理はどうするか」</p> <p>4) ワークショップ:「蛋白尿や腎障害を伴う糖尿病と妊娠」</p> <p>5) ランチョンセミナー:「少子高齢化社会における生活習慣病としての糖尿病」 「糖尿病患者への心理的アプローチ」 「?妊娠出産の心理的問題とその援助?」</p> <p>◎その他学会誌「糖尿病と妊娠」2巻1号(8月)、2号(11月)を発行した。日本糖尿病・妊娠学会のホームページをアップした。 (http://www.dm-net.co.jp/jspd/main.html)</p>	<p>・妊娠糖尿病に関するスクリーニングと妊娠糖尿病にかかった人の分娩後の糖尿病への進展率のフォローアップスタディ。</p> <p>・糖尿病妊婦から生まれた奇形児を少なくするため計画妊娠を励行させる。</p> <p>・特に我が国では若年者の糖尿病でも欧米と異なり2型糖尿病が多く、見逃されることが多いので、妊娠前から糖代謝異常のチェックを行う必要性を知ってもらう努力を行う。</p> <p>◎ 学術集会 2003年10月24日・25日開催、新潟市民プラザ 約400名参加予定概要</p> <p>1) 特別講演:「糖尿病性腎症の予防と治療戦略」</p> <p>2) 招聘講演:「Obesity and diabetes in the offspring of women with diabetes during pregnancy」</p> <p>3) シンポジウム:「糖尿病をもった女性の計画妊娠?健やかな妊娠・出産に向けて?」</p> <p>◎その他 学会誌「糖尿病と妊娠」3巻を発行予定。 日本糖尿病・妊娠学会のホームページを随時更新する。 (http://www.dm-net.co.jp/jspd/main.html)</p>
62	日本小児科系関連学会協議会	3	39.41.		<p>1. 協議会全体会議を開催する。</p> <p>2. 日本小児総合医療施設協議会とともに、2003年度診療報酬改定要望書を作成する。</p> <p>3. 小児科系関連学会・研究会の当協議会への参画を呼びかける。</p> <p>4. 課題3グループの行動目標である「麻疹予防接種率の向上」への取り組みを参加各団体に呼びかける。</p>	
63	日本母乳哺育学会	2	15.46.48.49.52.	<p>15.46.48.49.52</p> <p>◆第17回日本母乳哺育学会学術集会開催 学術集会会長 佐藤郁夫(国際医療福祉大学教授) 平成14年9月28.29日 栃木県総合文化センター 教育講演:母乳と喫煙 大阪府健康福祉部地域保健課 島本太香子 特別講演:母乳育児とカンガルーケア 聖マリアンナ医科大学 堀内助 シンポジウム</p> <p>1:母乳育児と歯の考え方 青葉子どもと親の歯科医院 青葉達夫 2:母乳育児推進のための秘訣とジレンマ 梅田病院 梅田馨 3:母乳育児のコツとジレンマ 低出生体重児の場合— 神奈川県立子どもセンター 大山牧子 4:母乳哺育推進のための秘訣と自宅出産 みづき助産院 神谷整子 一般 演題:多数</p> <p>◆日本母乳哺育学会ニュースレター発行 ◆日本母乳哺育学会ホームページ立ち上げ</p>	<p>◆第18回日本母乳哺育学会学術集会開催 学術集会会長 戸谷誠之(昭和女子大学大学院生活機構研究科) 平成14年9月19.20日 昭和女子大学80年記念館オーロラホール他 特別講演:母乳と栄養—韓国女性の研究から— 檀國大学 金乙祥 教育講演:消化吸収と腸内フローラ 理化学研究所 辨野義己 公開講演会:母乳と離乳食の栄養学 聖マリアンナ医大 堀内助 宮 城県立こども病院 堺武男 パネルディスカッション 離乳・母乳育児継続への支援とは?—健やか親子21に向けて— シンポジウム 母乳の栄養学とその進歩 ◆ニュースレター・ホームページの充実 ◆一般市民への母乳育児の普及・啓蒙と情報提供のための母乳育児 Q&Aの作成 母乳に関する基礎研究・母乳育児に関する研究と、第一線現場での母乳 育児支援を行っている専門家への情報提供を通して、各課題に貢献 したいと考えています</p>	
		4	15.46.48.49.52.	<p>15.46.48.49.52</p> <p>◆第17回日本母乳哺育学会学術集会開催 学術集会会長 佐藤郁夫(国際医療福祉大学教授) 平成14年9月28.29日 栃木県総合文化センター 教育講演:母乳と喫煙 大阪府健康福祉部地域保健課 島本太香子</p>	<p>◆第18回日本母乳哺育学会学術集会開催 学術集会会長 戸谷誠之(昭和女子大学大学院生活機構研究科) 平成14年9月19.20日 昭和女子大学80年記念館オーロラホール他 特別講演:母乳と栄養—韓国女性の研究から— 檀國大学 金乙祥 教育講演:消化吸収と腸内フローラ 理化学研究所 辨野義己</p>	

				<p>特別講演:母乳育児とカンガルーケア 聖マリアンナ医科大学 堀内勤 シンポジウム</p> <p>1:母乳育児と歯の考え方 青葉子どもと親の歯科医院 青葉達夫 2:母乳育児推進のための秘訣とジレンマ 梅田病院 梅田馨 3:母乳育児のコツとジレンマ 低出生体重児の場合— 神奈川県立子どもセンター 大山秋子 4:母乳育児推進のための秘訣と自宅出産 みづき助産院 神谷整子—般 演題:多数</p> <p>◆日本母乳哺育学会ニュースレター発行 ◆日本母乳哺育学会ホームページ立ち上げ</p>	<p>公開講演会:母乳と離乳食の栄養学 聖マリアンナ医大 堀内勤 宮城県立こども病院 堺武男 パネルディスカッション 離乳・母乳育児継続への支援とは?—健やか親子21に向けて—シンポジウム 母乳の栄養学とその進歩 ◆ニュースレター・ホームページの充実 ◆一般市民への母乳育児の普及・啓蒙と情報提供のための母乳育児Q&Aの作成 母乳に関する基礎研究・母乳育児に関する研究と、第一線現場での母乳育児支援を行っている専門家への情報提供を通して、各課題に貢献したいと考えています</p>
64	日本女医会	1	2.9.及び3.4.12.	<p>十代の人工妊娠中絶の予防 性感染症に対する若者の知識の普及・啓蒙 * 「十代の性と健康」指導者養成講座を継続して二回開催(第二回、第三回) 目的:十代の妊娠中絶率の増加に伴い、増加している性感染症の恐ろしさを教え、正しい科学的知識・予防法等を徹底する。 参加人数(対象者): 第二回 109名(医師、教諭、助産師、保育師、警察、学生、その他) 第三回 186名(医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他) 開催数 2回 方法等 1回目は「性と健康を考える女性専門家の会」の協力 2回目も「性と健康を考える女性専門家の会」の協力、さらに 宇都宮市の共催、栃木県医師会、宇都宮市医師会、宇都宮市 教育委員会の後援を得た。 効果、その他 専門性の高い講師を選定し、講演内容も受講者より極めて好評であった。 * 性教育指導の専門指導者の養成とネットワーク * ウェブサイトによる健康教育 「十代の若者からの質問に答える」という形式をとった。 若者からのアクセスを多くするための方法を検討する。</p>	<p>十代の人工妊娠中絶の予防 性感染症に対する若者の知識の普及・啓蒙 * 「十代の性と健康」指導者養成講座を全国5ヶ所で開催する。 * 「ウェブサイトによる健康教育」の内容充実を図る。 * 地域における性教育の充実と強化 * 会誌に「健やか親子21」について、記事を掲載する。</p>
		4	46.49.	<p>子育てに自信がもてるような支援の推進 育児について相談できる環境の整備 * 「十代の性と健康」指導者養成講座を継続して二回開催(第二回、第三回) 目的:十代の妊娠中絶率の増加に伴い、増加している性感染症の恐ろしさを教え、正しい科学的知識・予防法等を徹底する。 参加人数(対象者): 第二回 109名(医師、教諭、助産師、保育師、警察、学生、その他) 第三回 186名(医師、教諭、養護教諭、保健師、助産師、看護師、学生、その他) 開催数 2回 方法等 1回目は「性と健康を考える女性専門家の会」の協力 2回目も「性と健康を考える女性専門家の会」の協力、さらに、宇都宮市の共催、栃木県医師会、宇都宮市医師会、宇都宮市 教育委員会の後援を得た。 効果、その他 専門性の高い講師を選定し、講演内容も受講者より極めて好評であった。 * 身近なところで気軽に相談指導を受けることができる体制作り並びに 女</p>	<p>子育てに自信がもてるような支援の推進 育児について相談できる環境の整備 * 「十代の性と健康」指導者養成講座を全国5ヶ所で開催する。そのため資料集、教材の開発し、子どもを取り巻く誰もが科学的な性の健康教育を自然体で教える雰囲気作りを目指す。 * 地域のネットワーク作り * 身近なところで気軽に相談指導を受けることができる体制作り並びに 女性医師の研究強化</p>

				性医師の研究強化	
65	日本産業衛生学会	2		<p>就労女性健康研究会平成14年度事業報告 代表世話人 香川 順</p> <p>就労女性健康研究会は第75回産業衛生学会期間中の2002年4月10日に特別報告と第4回の研究会を行った。</p> <p>特別報告は「職場における母性健康管理の現状と課題」を長井聡里先生から「性差に基づく医療からみた女性の予防医学」を荒木葉子先生からお話頂いた。同日の同会場で行われた研究会では「性差を考慮した定期健康診断とTHPのあり方-母性・女性の予防医学的視点から-」と題して「母性をめぐる就業管理のゆくえ」を長井聡里先生から「性差に基づく医療からみた女性の予防医学」を荒木葉子先生から話題提供いただき、今後の就労女性の定期健康診断のあり方についてその後活発な討論が行われた。その他、今年度は労働衛生国際協力研究会例会等に参加し「産業発展と女性労働に関する指針」の作成に協力してきた。また、第4回研究会の参加メンバーと共に第5回研究会の内容・講演者の検討、来年度の研究会活動について意見交換を行っている。</p>	就労女性の健康管理の指導に必用な最新の知識
66	日本小児循環器学会	3		<p>1. 小児の心臓移植に対するガイドランスを作成。第39回小児循環器学会で公表した。当日、マスコミに対する共同記者会見を行った。このガイドランスは、どのような症例が移植の適応になるかを示したものである。</p> <p>2. 学校心臓検診の推進と、精度の向上につとめている。昨年、学校生活管理指導表が学校保健会で作成された。これの普及につとめている。さらに、心臓検診に使われている調査表の改定を行う予定である。</p>	<p>1. 小児の心疾患に対する予防接種のガイドランスを作成。小児科学会へ報告。</p> <p>2. 突然死をきたす可能性があるQT延長症候群の特徴を検討している。</p> <p>3. 生活習慣病の小児期からの予防について研究委員会の立ち上げを計画している。</p>
67	日本泌尿器科学会	1	9	<p>1. 平成14年8月22日から24日まで、金沢市文化ホールで開催された第21回日本思春期学会を日本泌尿器科学会並木幹夫理事が担当した。まず学会初日には「健やか親子21」を推進する立場から、「思春期をめぐる諸問題と「健やか親子21」-保健・医療・教育現場での取り組み-」と題するシンポジウムを市民公開講座として行ない、一般市民および約600名の全国の保健、医療、教育関係者にこの運動に理解を求めた。</p> <p>学会2日目には広島大学木原雅子先生の特別講演『日本の若者の性行動と性感染症感染リスク』が行なわれ、教育担当者や保健担当者の性感染症に対する知識の向上が図られた。</p> <p>2. 全国各地の講演会(群馬県生殖医療研究会、Urological Research Conference of Tokyo、北九州泌尿器科臨床医会、南加賀泌尿器科医会、等)で、「健やか親子21」の取組みを泌尿器科医に説明し、理解と協力を求めた。</p>	<p>1. 第53回日本泌尿器科学会中部総会教育セミナーで、長野赤十字病院天野俊康先生に「思春期とSTD 一男子思春期研究会の取組み」を講演いただき、一般泌尿器科医に理解と協力を求める。</p> <p>2. 全国各地の講演会で「健やか親子21」の取組みを説明し、理解と協力を求める。</p>
68	日本臨床心理士会	4	46.子育てに自信が持てるような支援の推進	<p>* 子育て支援研修会の開催 目的と内容:子どもの心理アセスメント、親支援にあたる専門家への臨床心理士の対応方法、他職種との連携 参加人数、対象者:臨床心理士、約800名 開催数、方法等:1回平成14年11月17日、於:白百合女子大学、 効果、その他:保育所・保健所保健センターの保育士や保健師との連携・協働、公民館活動の社会教育プログラムへの協力、幼稚園での親支援、区市の児童家庭課の心理相談 など多方面での臨床心理士による子育て支援の実情を共有し、支援の方法を研鑽した。</p> <p>* 日本臨床心理士会子育て支援担当者連絡会の開催 目的と内容:子育て支援に関する全国レベルの情報交換 家庭教育アドバイザー(文部科学省)に関する情報交換 参加人数、対象者:都道府県の臨床心理士会子育て支援担当者:50名強 開催数、方法:2回、 平成14年9月6日、平成14年11月17日</p>	<p>* 子育て支援研修会の継続実施 平成15年11月、子育て支援研修会を東京で実施予定 参加人数、対象者:臨床心理士 約800名程度</p> <p>* 日本臨床心理士会子育て支援担当者会議の継続実施 平成15年11月 臨床心理士会子育て支援担当者会議を開催予定 参加人数、対象者:都道府県の臨床心理士会子育て支援担当者:50名強</p> <p>* 虐待に関する対応を検討課題とする予定</p> <p>* 子育て支援に関連する課題へのさらなる取り組みの強化</p>

				効果、その他:各県の臨床心理士会の取り組み状況の情報交換の実施神奈川県・長野県・鹿児島県などで家庭教育アドバイザーの配置開始、子育てサポーター(文部科学省)の研修・コンサルテーション・養成講座を臨床心理士が担った、などの情報共有した。	
69	全国母子保健推進員連絡協議会	1			2.3.9.14.18.27.28.29.44.45.46.55.58.62. 1 社団法人母子保健推進会議会長表彰の実施 富山県富山市で開催される「母子保健家族計画全国大会」において地域の母子保健活動に従事され功績を挙げられた地域組織や個人に対して(社)母子保健推進会議会長表彰を行う。 2 第3回母子保健推進員全国大会の開催 開催日:平成15年11月7日(金) 会 場:富山県民会館 3 母子保健推進員教育事業 母子保健推進員研修会の開催 4 本会議機関紙「母推さん」の刊行 「母推さんー母子保健推進員だよりー」(タブロイド判)を毎月1日(No.104~No.115)発行し、都道府県・保健所・市町村および母子保健推進員協議会等関係機関に配布する。 5 母子保健に対する知識の普及啓発活動 10月を「母子保健強調月間」とし、厚生労働省の後援、(社)日本産婦人科医会など、会員団体の協力を得て次の事業を行う。 妊産婦、乳幼児の健康診査受診勧奨ポスターの制作配布 〔表 題〕「ママと赤ちゃんの健康チェックー支えよう21世紀の健やか親子ー健診を忘れずに受けましょうー 働く女性・事業主の皆さん「母健連絡カード」を利用しましょう 「健やか親子2」国民運動の推進
		1			6 母子歯科保健知識の普及活動 (1)母子保健推進員、保健師、学校関係者の歯科保健教育研修会の開催 (2)歯科保健に関するテキストの制作配布 〔表 題〕ダブルファイル「キシリトールでむし歯予防」「歯ブラシはこまめに替えよう」 (3)歯科保健パンフレットの委託制作 愛知県及び三重県歯科医師会より委託を受け制作・配布する。 (4)母子歯科保健教材セットの配布事業 (5)歯科保健に関するリーフレットの制作配布 (6)歯科保健指導用パネル制作配布 7 妊婦等禁煙運動の推進 (1)ポスターの制作配布 〔表 題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 (2)リーフレットの制作配布 〔表 題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 (3)クリアファイルの制作配布 〔表 題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」 タバコの吸いすぎは、早産・低体重児の誘因になります。 8 子どもの事故防止推進事業 9 児童虐待防止のための母子保健推進活動支援、研修、パンフレット配布
		2			2.3.9.14.18.27.28.29.44.45.46.55.58.62. 1 社団法人母子保健推進会議会長表彰の実施 富山県富山市で開催される「母子保健家族計画全国大会」において地

				<p>域の母子保健活動に従事され功績を挙げられた地域組織や個人に対して(社)母子保健推進会議会長表彰を行う。</p> <p>2 第3回母子保健推進員全国大会の開催 開催日:平成15年11月7日(金) 会 場:富山県民会館</p> <p>3 母子保健推進員教育事業 母子保健推進員研修会の開催</p> <p>4 本会議機関紙「母推さん」の刊行 「母推さんー母子保健推進員だより」(タブロイド判)を毎月1日(No.104~No.115)発行し、都道府県・保健所・市町村および母子保健推進員協議会等関係機関に配布する。</p> <p>5 母子保健に対する知識の普及啓発活動 10月を「母子保健強調月間」とし、厚生労働省の後援、(社)日本産婦人科医会など、会員団体の協力を得て次の事業を行う。 妊産婦、乳幼児の健康診査受診勧奨ポスターの制作配布 〔表 題〕「ママと赤ちゃんの健康チェックー支えよう21世紀の健やか親子・健診を忘れずに受けましょうー 働く女性・事業主の皆さん!母健連絡カード」を利用しましょう 「健やか親子21」国民運動の推進</p>
		2		<p>6 母子歯科保健知識の普及活動</p> <p>(1)母子保健推進員、保健師、学校関係者の歯科保健教育研修会の開催</p> <p>(2)歯科保健に関するテキストの制作配布 〔表 題〕ダブルファイル「キシリトールでむし菌予防」「歯ブラシはこまめに替えよう」</p> <p>(3)歯科保健パンフレットの委託制作 愛知県及び三重県歯科医師会より委託を受け制作・配布する。</p> <p>(4)母子歯科保健教材セットの配布事業</p> <p>(5)歯科保健に関するリーフレットの制作配布</p> <p>(6)歯科保健指導用パネル制作配布</p> <p>7 妊婦等禁煙運動の推進</p> <p>(1)ポスターの制作配布 〔表 題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」</p> <p>(2)リーフレットの制作配布 〔表 題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」</p> <p>(3)クリアファイルの制作配布 〔表 題〕「ママ、パパ、タバコすわないで」</p> <p>タバコの吸いすぎは、早産・低体重児の誘因になります。</p> <p>8 子どもの事故防止推進事業</p> <p>9 児童虐待防止のための母子保健推進活動支援、研修、パンフレット配布</p>
		3	27,28,44,45,55,58,62.	<p>1 第2回母子保健推進員全国大会の開催 平成14年11月15日(金)佐賀市文化会館において本会議、佐賀県、佐賀市、全国母子保健推進員連絡協議会の主催、厚生労働省他20団体の後援により1,100名の母子保健推進員及び関係者を集め、開催した。 行政説明:国民運動「健やか親子21」の推進を 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課 課長 谷口綾 思春期教育劇:「未来へ」 沖縄市母子保健推進員「ひまわり会」 シンポジウム:「母子保健推進員協議会活動の現状と展望」 司会:(社)母子保健推進会議常務理事 原澤 勇</p>
				<p>2,3,9,14,18,27,28,29,44,45,46,55,58,62.</p> <p>1 社団法人母子保健推進会議会長表彰の実施 富山県富山市で開催される「母子保健家族計画全国大会」において地域の母子保健活動に従事され功績を挙げられた地域組織や個人に対して(社)母子保健推進会議会長表彰を行う。</p> <p>2 第3回母子保健推進員全国大会の開催 開催日:平成15年11月7日(金) 会 場:富山県民会館</p> <p>3 母子保健推進員教育事業 母子保健推進員研修会の開催</p>